

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 12 No.17 2010年9月15日号

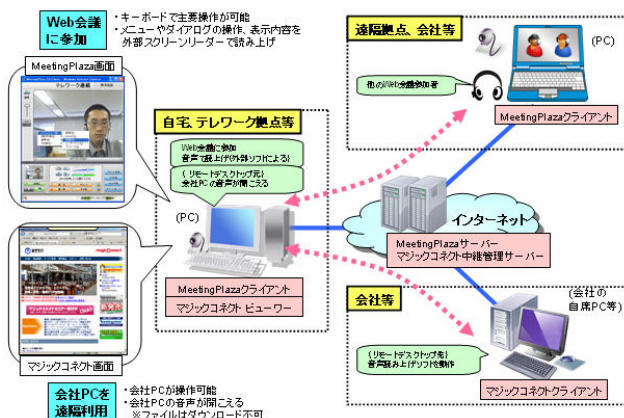
編集: editor@cnar.jp 広告: pr@cnar.jp 読者登録: <http://cnar.jp>

Copyright 2010 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

NTT アイティ、視覚障がい者も操作可能なテレワークツールを発売、MeetingPlaza 音声読み上げに対応

NTT アイティ株式会社(横浜市中区)は、音声読み上げに対応した Web 会議システム/サービス「MeetingPlaza(ミーティングプラザ)」と、リモートアクセスを可能にする「マジックコネクト」を組み合わせ、視覚障がい者も操作可能なテレワークツールを開発、9月1日より販売を開始した。



テレワークツール「MeetingPlaza」と「マジックコネクト」の利用イメージ (NTT アイティ資料)

今回発売開始した MeetingPlaza では、PC 画面に表示されている主要操作をキーボードで行うことができるとともに、特定の音声読み上げソフトによって画面内の情報を読み上げることができるようになった。

またセキュリティを確保した状況で、マジックコネクトを組み合わせることで、遠隔の PC で再生されている読み上げ音声をローカルの PC で聴くことができる。これにより、視覚障がい者も、移動したりせずに、自宅の PC や会社の PC などから Web 会議への参加が可能となった。

今回の開発の背景には、聴覚障がい者は、画面を見ながらマウスで操作することが困難なため、音声読み上げに対応していない場合やマウス以外で操作できない場合は、そ

のプログラムを利用することができないという現状がある。

そこで、NTT アイティは、障がい者の通勤負荷の軽減やバリアフリー化に役立ててもらうために、NTT サイバーソリューション研究所と NTT クラリティ株式会社の協力を得て今回のテレワークツールを開発した。

MeetingPlaza は、2001年6月よりNTT アイティが開発、販売を行っている。現在システム販売と ASP サービスを合わせて 3,000 社を越える導入実績があり、国内の Web 会議市場ではトップクラスのシェアを持っている。最新版は、2010年2月発売した MeetingPlaza 5.5。H.323 テレビ会議とも連携可能。

一方マジックコネクトは、HTTP トンネリング技術により、ファイアウォールに守られた機器(PC、WS、組込機器等)へ外部からの接続を可能にするソフトウェア。2004年9月より NTT アイティが開発、販売を行っている。国内 1000 社以上の導入実績をもち、「テレワーク推進賞・優秀賞」や「SOHO AWARDS 選考委員賞」などを受賞している。

NTT アドバンステクノロジー、カスケード接続で最大 40 名程度の大人数の会議に対応したマイクスピーカ発売



RealTalk C7 (NTT アドバンステクノロジー資料)

NTT アドバンステクノロジー株式会社(東京都新宿区)は、同社が販売する「RealTalkシリーズ」に、音声会議用マイクスピーカの新機種「Real Talk R7」を追加し、9月1日より販売開始した。(8月30日)

同社では、2007年からNTTサイバースペース研究所が開発したエコーキャンセラーとノイズリダクション技術を活用したマイクスピーカ一体型ハンズフリー装置「RealTalk C7」を販売してきたが、追加機能として特に要望が多かった大人数の会議へ今回Real Talk R7は対応した。

Real Talk R7は、固定電話、携帯電話、IP電話、ビジネスホンに加えて、USB接続でPCにも簡単に接続できるため、すでに利用している回線で、すぐに音声会議が行える。

煩雑な設定も不要、カスケード接続もケーブルをつなげるだけの簡単さ。最大6台のReal Talk C7をつなげることで、40名程度の会議も行える。

また、エリア集音機能を搭載。4つのエリアごとに集音のON/OFFが可能。プロジェクトなどの雑音をカットすることで、クリアな音声通話を実現するという。

RealTalk R7本体の寸法は、約201mm(W) x 約201mm(D) x 約140mm(H)。重量は、約850g。電源は、AC100V~240V。入出力端子は、ライン入力・ライン出力・マイク出力兼用(Φ3.5mm ステレオミニジャック)、USB、ハンドセット(4ピンモジュラ)、録音(Φ3.5mm ステレオミニジャック)。

販売予定価格は、本体が、113,400円(税込)、カスケードケーブルが、10,290円(税込)。

ベーシック、リッチクライアントCurlを用いた情報コミュニケーションツールの最新版を発表

株式会社ベーシック(東京都新宿区)は、住商情報システム株式会社(東京都中央区)のリッチクライアント「Curl」を用いた情報コミュニケーションツール「Meeting Board」のユーザーインターフェイスの最新版V2.00-100を公開した。(8月25日)

ベーシックは、Webプログラミング言語であるCurlのグラフィックス機能に特化したシステム開発を得意としており、

Meeting Boardは、同社がCurlを用いて開発。

Meeting Boardは、ホワイトボードを使うのと同じような操作性をWebアプリケーション上で実現し、手書き感覚で直接書き込みができるのが特長。複数クライアント間でホワイトボードを共有できる。

用途としては、グローバル展開をしている製造業の本社・拠点・工場間の情報連携、口頭では説明が困難なデザインに関する詳細な指示など、情報コミュニケーションツールとして幅広く活用ができるという。



Meeting Board (ベーシック資料)

販売価格については、基本パッケージが80万円～(税抜)。事前の検討のための評価版がダウンロードできるようになっている。

ベーシックは、ISVとして制御・通信・組込分野からオープン系の金融・物流・基幹まで幅広い分野のシステム受託開発を主軸に、ユーザの多様化するニーズに対応するためソリューション・プロダクト販売も手がける。

住商情報システムは、1969年の設立。顧客ニーズに対応したシステムアプリケーションを提供する業務系ソリューション事業、自社開発パッケージソフトを中心としたERPソリューション事業、ITインフラを構築するプラットフォームソリューション事業などの戦略的業務領域に強みを持ち、国内外の顧客に総合的なソリューションを提供している。

(次ページへ続く)

ブイキューブの V-CUBE ミーティング、iPad と連携

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、同社の主力商品である「V-CUBE ミーティング」を、アップル社の「iPad」に連携させ、新アプリケーションとして 8 月 30 日より販売を開始した。

この iPad 連携は、遠隔会議による資料の閲覧を各自手元の iPad で閲覧できるスタイルを想定しており、機能の大部分をホワイトボードの閲覧に絞っている。これにより、操作に迷うことなく重要な会議などでも資料に集中できる設計となっている。

ブイキューブでは、iPad を使用した3つの利用シーンを同社のプレスリリースで紹介している。

(1)テレビ会議専用端末との併用。テレビ会議専用端末との組み合わせでは、プロジェクター等で各拠点の映像を表示し、資料表示は、iPad で行う。企業だけでなく、学校や塾などでも活用できるという。

(2)V-CUBE ミーティングとの併用。V-CUBE ミーティングと組み合わせることで、それぞれの環境で自由に資料のズームや縮小ができ、理解度も向上するメリットがあるという。

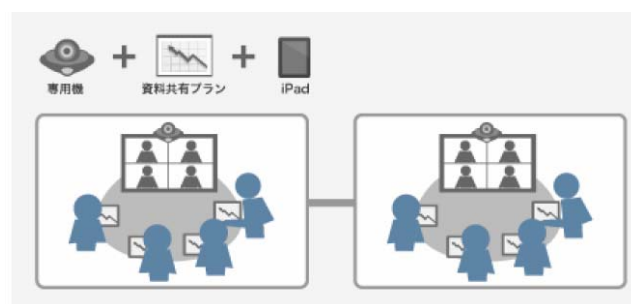
(3)通常の会議との併用。伝達事項が多い定例会やセミナーなど大勢が集まるような会議でも資料の共有がしっかりと行えるという。

この連携によるサービスを利用するための、iPad 推奨環境は、Wi-Fi+3Gもしくは、WiFi環境が必要。アプリについては、App Store から無料でダウンロード可能。

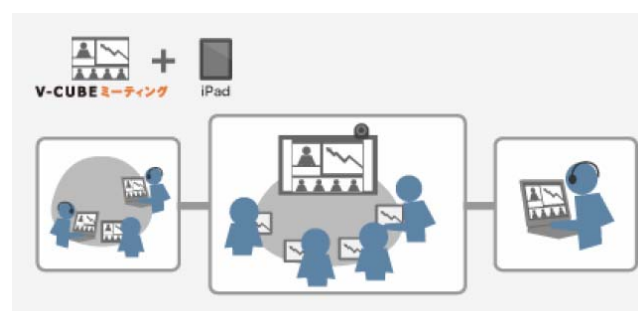
価格は、「iPad Basic」が月額 5,000 円/部屋(5 端末まで)で、「iPad Plus」が月額 10,000 円/部屋(5 端末まで)。価格は税抜き。

iPad Basic では、iPad 対応の無料アプリケーションから会議への参加、そして、ホワイトボード上の資料の閲覧やテキストチャットの機能が利用できる。

iPad Plus では、iPad Basic の資料共有とチャットに加え、写真のアップラス、会議参加者の映像の閲覧も見る事が出来る。



テレビ会議端末との併用イメージ (ブイキューブ資料)



V-CUBE ミーティングとの併用イメージ (ブイキューブ資料)



通常の会議との併用イメージ (ブイキューブ資料)

これらのサービス利用にあたっては、別途V-CUBEミーティングまたは資料共有プランの契約が必要だが、V-CUBE ミーティングの初期設定費用と月額基本料は含まれていない。

同社では、9 月 30 日申込期限で、無料使い放題トリアルサービスを実施している。現在、V-CUBE ミーティングの利用契約をおこなってなくても、V-CUBE ミーティングと iPad 連携を同時に体験することができる。

(次ページへ続く)

ポリコムジャパン、Polycom UC Intelligent Core ソリューションを発表、総所有コストの最小化、容量拡大、ネットワークの柔軟性を最大化、合わせて RMX1500 など発表

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、「Polycom UC Intelligent Core(ポリコム UC インテリジェントコア)」コンセプトのもと、同社のビジュアルコミュニケーション インフラストラクチャー ソリューションを強化した。(8月18日)

Polycom UC Intelligent Core は、多地点接続、仮想化、管理、スケジューリング、ゲートキーパーなどの業界最先端のインフラシステムを基盤に、安全で高品質な HD(ハイデフィニション)のビデオサービスを組織全体に幅広く提供する点が特長。

加えて、マイクロソフト、HP、IBM、ジュニパーネットワークス、ブロードソフト、アバイアなどの「Polycom Open Collaboration Network」パートナーが提供するユニファイドコミュニケーションプラットフォームとのネイティブな統合も可能だ。

さらに、Polycom UC Intelligent Core は、H.264 ハイプロファイルによる帯域幅の半減や、「Polycom RMX」と「Polycom DMA 7000」を組み合わせて多地点会議のリソースを最適化してネットワーク容量を拡張するなど、ネットワークの柔軟性、拡張性、冗長性を最大化するとともに、既存のソリューションと比べて総所有コスト(TCO)を低く抑え投資を確実に保護すると同社では説明する。

前述の多地点会議のリソースを最適化してネットワーク容量を拡張する点については、Polycom UC Intelligent Core によって、混在環境内での会議リソースを、既存ソリューションと比較して最大 3.5 倍までに拡大して提供することができるという。また、Polycom DMAソフトウェア最新リリース版では、「TANDBERG Codian 4500」多地点接続装置をサポートする。

今回の Polycom UC Intelligent Core 発表にあわせて、ポリコムジャパンからは、中規模組織向けメディア会議プラット



Polycom RMX 1500 (ポリコムジャパン資料)

フォーム「Polycom RMX 1500」の他、「MPMx カード搭載の Polycom RMX リリース 7.0」、「Polycom DMA 7000 リリース 2.2」の提供開始も発表された。また、Polycom UC Intelligent Core ソリューションのプランニング、デザイン、導入をサポートする専門サービスについては、ポリコムの認定販売代理店を通じて提供する。

ポリコムジャパン、Microsoft Communications Server “14” 向けソリューションの機能拡張を発表

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、Polycom CX シリーズに新機種を追加したことを発表した。(8月24日)



Polycom CX500(ポリコムジャパン資料)

今回の発表されたデスクトップ用 IP 電話機「Polycom CX500」、「Polycom CX600」の 2 機種と、IP 音声会議システム「CX3000」の 3 つの新機種は、マイクロソフト社の「Microsoft Office Communications Server “14”(マイクロソフト オフィス コミュニケーションズ サーバ”14)」向けに

設計されておりネイティブに接続ができる。Microsoft Office Communications Server “14”は、プレゼンス、インスタントメッセージ、音声、ビデオ、および Web 会議などのユニファイドコミュニケーション機能を提供するサーバ。



Polycom CX600(ポリコムジャパン資料)



Polycom CX3000(ポリコムジャパン資料)

これらの新機種は、Polycom HD Voice(広帯域音声)技術、人間工学に基づいたハードウェアのデザインで Microsoft Office Communications Server “14”環境での音声通話を可能にする。

新たに拡張された機能は、次の通り。(1)写真付きの連絡先情報に対応。相手を簡単に認識することが可能。(2)録音されたメッセージを一覧で表示するビジュアルボイスメール。ユーザは訊きたいボイスメールを簡単に選択することが可能。(3)電話機と Microsoft Office Communications Server “14”のそれぞれの通話ログの自動的同期。ユーザの検索時間を短縮。(4)PIN による認証。あらゆるデバイスからのサ

インインを簡略化。(5)「Better together」機能(「Polycom CX600」と「Polycom CX3000」のみ対応)。USB 接続を介した PC からシングルサインオンやクリック to コール、そして電話機と PC 間の音声調整が可能。

今回発表された Polycom CX シリーズ IP 電話機は、いずれも、2010 年第 4 四半期よりポリコムの認定販売代理店より販売される。価格はオープン。

ビジネス動向-国内

ポリコム、エンドツーエンドのユニファイドコミュニケーションで、マイクロソフトと新たな戦略的提携

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、マイクロソフトとの新たな複数年にわたる世界的な戦略提携に合意したと発表。(8月24日)

ポリコムは、従来マイクロソフトの UC ソリューション用に音声、ビデオ、アプリケーションなどの連携ソリューションを提供してきたが、今回の提携合意は、メッセージング、映像、音声によるコミュニケーションを、さまざまなアプリケーションやデバイスと連携させ、より効率的にさせる目的がある。

また、この提携によって、ポリコムは、マイクロソフトの UC 事業において世界で重要な戦略的アライアンスの一員になる。両社が製品開発、セールス、マーケティングにそれぞれ投資することで、コスト削減、生産性向上などユーザー組織特有のビジネスニーズを満たす柔軟で競争力の高い UC ソリューションを提供するという。

具体的には、両社は、製品開発とグローバルでの Go-to-Market イニシャチブで協業する。

まず製品開発においては、ポリコムは、「Microsoft Office Communications Server “14”」およびそれ以降向けに、以下のソリューションを開発していく。(1)Polycom CX シリーズ IP 電話機、(2)Microsoft Office Communications Server “14”に直接統合できる会議室用ビデオ会議システム、(3)ポリコムの既存および将来のビデオ会議ソリューションと相互

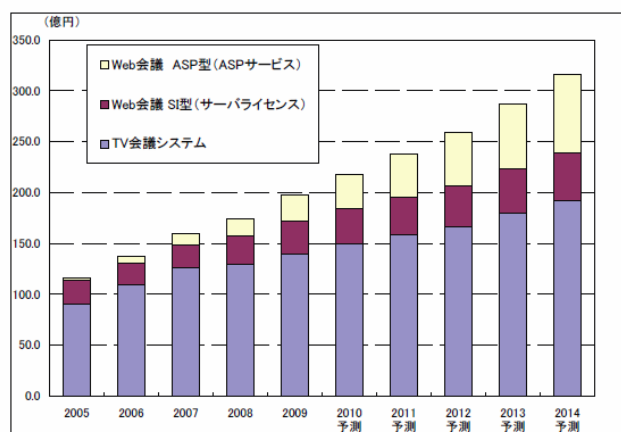
運用が可能な追加ソリューション。

一方、Go-to-Market イニシャチブにおいては、以下を取り組む。(1)営業リソース、トレーニング、(2)共同マーケティング、(3)チャンネルパートナーの開拓及び支援、(4)日本を含む世界各地でのMicrosoft Technology Centerでのデモンストレーション、(5)世界規模での音声およびビデオのUCソリューションに関するガバナンスと協調、(6)UCの普及を促進するための共同メッセージの発信と業界での認知活動。

市場動向-国内

矢野経済研究所、テレビ会議/Web会議調査結果発表、不況下でも堅実に伸びるテレビ会議と急成長のWeb会議

株式会社矢野経済研究所(東京都中野区)は、テレビ会議/Web会議システム市場の調査を実施、その結果を発表した。(9月6日)



注1: TV会議システム、Web会議SI型は出荷金額ベース
 注2: Web会議ASP型は契約金額ベース
 注3: Web会議SI型の出荷金額にはハードは含まない。
 注4: 予測は予測値

TV会議/Web会議システム出荷金額推移 (国内市場、2005～14年、億円) (矢野経済研究所資料)

テレビ会議システム(ルーム型)国内市場は、リーマンショックにともなうコスト削減、パンデミック対策での海外出張削減などの理由から、新規・追加・更新需要において、企業の導入がすすみ、110%弱の堅実な成長によって2014年には、192億円規模の市場になると予想する。また、HD対応端末が出始めたこともあり、HD導入にともなう更新需要も増えて

いるという。

その堅実な成長の下支えをしているのが、中小企業であると矢野経済研究所では分析している。現在のテレビ会議の需要は、大企業においては一巡した観があるため、新規需要は、中小企業がメインと見るからだ。ただ、爆発的な成長ではないという。その理由として、大企業とは違い、中小企業の導入は、1案件2～3台の導入が多いためという。件数は増えたとしても、出荷台数を大きく押し上げるほどではないからだ。

その他、将来的には、ユーザ企業が自社内・自社系列内だけで使用するシステムではなく、日常的な営業活動や取引先などとの打合せにも活用するシステムへと需要が拡大し、さらなる需要喚起に貢献すると見る。

一方、Web会議システム国内市場(SI型とASP型)については、2005年25.3億円であったのが、2014年には、123.9億円となり約5倍成長すると予測する。とりわけ、ASP型が市場拡大を牽引し、その規模は、2005年の2.8億円から2014年には76.4億円となり、10年間で約27倍の市場規模に達すると予測する。

Web会議システム市場は、製品間・企業間での競争が激化しているが、今後もSI型、ASP型共に、市場は成長していくと見る。

今回の調査は、2010年4月から8月の間に国内・海外の主要テレビ会議/Web会議システムメーカーに対して直接面談、電話、メール等によるヒアリングによって行われ、その詳細が、「2010年～11年版AR(拡張現実)/TV・Web会議システム市場—ビジュアル・コミュニケーション調査Vol.2—」(A4版314頁、9月6日発刊)にまとめられている。購入方法を含めた詳細は、同社ウェブサイトに掲載されている。

(次ページへ続く)

セミナー・展示会情報

< 国内 >

会議の効率化を実現!

『ConforMeeting 無料体験セミナー』 定期開催

日程: 9月22日(水)、29日(水)※全ての日程で14:00~15:00、16:00~17:00の2回開催

会場: NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)

主催: NEC、NEC 情報システムズ

詳細・申込:

<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

【総務・管理部門様必見】

キヤノンソフトウェアグループがご提案する

総務関連業務の効率化セミナー

日時: 9月17日 14:30~17:00(受付:14:00)

会場: キヤノンソフトウェア 三田本社 2階

主催: キヤノンソフトウェア株式会社、

キヤノンソフト情報システム株式会社

詳細・申込:

<http://www.canon-soft.co.jp/seminar/details/201008021028.html>

*Web 会議 IC³ の紹介もあり。

『クラウドコンピューティングで劇的経費削減&効率化の方法』実際のクラウド利用方法: ワークスタイル革新で劇的経費削減と推進力増強

日時: 9月17日(金) 13:30~17:00(13:00 開場)

会場: 渋谷区商工会館 2F セミナー室

主催: ニューロネット株式会社

共催: ライト株式会社

詳細・申込: <http://neuronet.co.jp/seminar/s100917.html>

Web 会議の導入のポイントと事例紹介セミナー

日時: 9月17日(金) 14:00-15:25 (受付開始 13:30)

会場: 富士ソフトアキバプラザ プレゼンルーム(7F)

(東京 秋葉原)

主催: PGI/プレミアコンファレンシング株式会社、

シスコシステムズ合同会社

内容・詳細: <http://www.premiere-marketing.jp/kaigi/seminar/index.html>

検討企業様対象 「iPad 体感セミナー」

~ iPad を使うと会議はどう変わるのか? ~

日時: 9月29日(水) 15:30~17:00(受付:15:15)

10月5日(火) 15:30~17:00(受付:15:15)

会場: ブイキューブ本社 デモンストレーションルーム

主催: 株式会社ブイキューブ

詳細・申込:

http://www.vcube.co.jp/secret_seminar/0830_1546.html

Flexible Cost Saver 無料 web 会議体験セミナー

日時: +東京(当社東京オフィスにて)

9月29日(水)14:00-16:00

+大阪(当社大阪オフィスにて)

9月27日(月)15:00-17:00

会場: エフ・シー・エス 東京オフィス/大阪オフィス

主催: 株式会社エフ・シー・エス

詳細・申込: <http://costsaver.jp/index.html#seminar>

IT pro EXPO 2010 ビジュアルコミュニケーション 2010

日時: 10月18日(月)~20日(水)

会場: 東京ビックサイト東4-6ホール

主催: 日経 BP 社

詳細・申込: <http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/2010/vc/index.shtml>

*展示と、講演(ビジュアルコミュニケーションフォーラム)。講演(18日)では、シード・プランニングの市場動向の他、日立製作所、ブイキューブ、ポリコムジャパン/プリンストンテクノロジーの講演あり。

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

次回もよろしくお願い致します。 (橋本啓介)